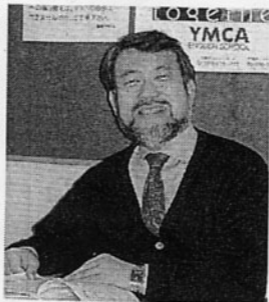


九州の仲間とともにNGO

角 正信さん

福岡YMCA国際センター館長の角正信さん(51)は先月、名古屋市であった海外活動をする全国NGO(非政府組織)会議で九州の現状を報告した。

大阪YMCAから里帰り赴任して1年。大阪ではNGOの連絡、調整役として関西NGO協議会の事務局長も務めた。九州でも地道に活動するグループ



は多く「経験を生かし、NGO同士のつながりを支援したい」と意欲を燃やす。

最近、NGO活動家が次々と九州に里帰りしている。「九州には志を持つ人が集い、活動に取り組むというNGOの原点が感じられる。九州ならではの活動スタイルを作れたらいいですね」

【祝部 幹雄】

ひ・と・も・よ・う 人・模・様



桜とともに平和に思いを

平山 良明さん

西部ガス社長の平山良明さん(67)は桜の季節になると、長崎原爆で亡くなった、いとこの林嘉代子さんを思い出す。

嘉代子さんは勤労働員先の長崎市・城山小学校で被爆死した。戦後、嘉代子さんの母で、平山さんの伯母の林津恵さんが供養のため校庭に桜の苗木を植樹。爆心近くですくすく育った桜は平和のシンボルになり、この逸話は「かよこ桜」の題で絵本になった。

被爆から54年。津恵さんも既に亡く、当時を知る人は減ったが、平山さんは「時間がとれれば今年も桜に会いに行きたい」と考えている。

【友田 道郎】

今年には森鷗外の小倉赴任100周年。5月にオリジナル作「舞姫異聞」を上演する北九州市の劇団青春座代表の井生定巳さん(58)の目下の友はインスタントコーヒー。「半年前から急に飲み出し、今は1日5、6杯。全然飲まなかったのになぜ」と不思議がる。

鷗外の生涯の原点をドイツ留学と小説「舞姫」にみて、劇中劇を織り交ぜた意欲作。結成54年のしにセアマ劇団だが「芝居は何のためにあるのか、また考えている。劇団はいつも変わっていかなければ」と飲み物同様、チャレンジ精神おう盛だ。

【前田 博之】



舞姫はコーヒーとともに

井生 定巳さん